

エコアクション21
環境活動レポート

共同グラビヤ印刷株式会社

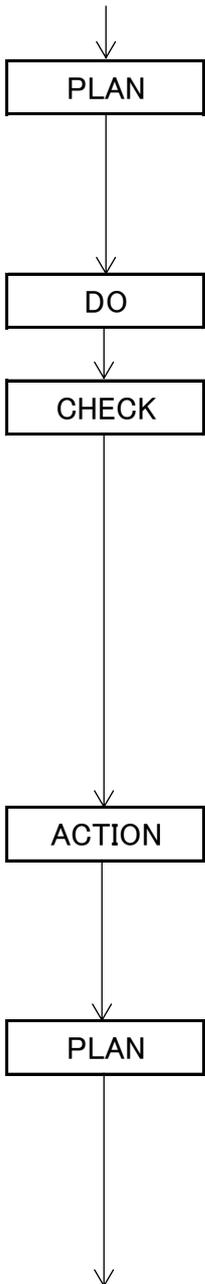
発行日 : 2018年6月30日

改訂日 : 2018年9月25日

(対象期間2017年4月～2018年3月)

目 次

1.組織の概要	3
1)事業者名及び代表者名	
2)所在地	
3)環境管理責任者	
4)事業の内容	
5)事業の規模	
2.認証・登録の対象範囲	3
3.環境方針	4
4.今年度の主要な環境活動計画の内容	5
5.今年度の環境目標およびそれに対する取り組み結果	6
6.取り組み結果に対する評価	7
7.本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価	10
8.教育訓練体制についての評価	10
9.環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10
10.代表者による全体評価と見直し	11
11.次年度の活動管理について	11
12.中期計画(2017年度～2021年度まで5ヶ年)	11
13.次年度の主要な環境活動計画の内容	12



1.組織の概要

(1)事業者名及び代表者名

共同グラビヤ印刷株式会社
代表取締役 八谷 順一

(2)所在地

〒496-0031 愛知県津島市埋田町5丁目100番地

(3)環境管理責任者

責任者 総務部長 高坂 誠一
連絡先 電話:0567-25-2356 FAX:0567-26-3013
事務局 業務部業務課係長 柴田 聡

(4)事業の内容

グラビヤ印刷及び包装資材販売

(5)事業の規模

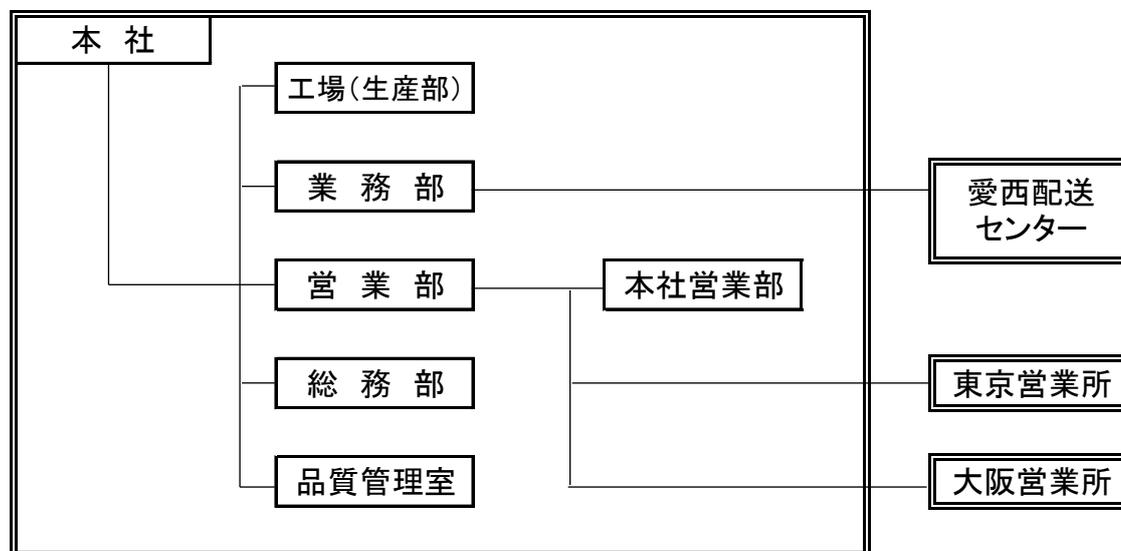
売上	12.4億円(2016.4月～2017.3月)
従業員数	50名(2018.4.1現在)
本社工場延べ床面積(駐車場含む)	2,183 平方メートル
愛西配送センター延べ床面積	1,904 平方メートル
東京営業所延べ床面積	40 平方メートル
大阪営業所延べ床面積	28 平方メートル

2.認証・登録の対象範囲

(認証・登録番号 0002785)

事業活動 : グラビヤ印刷及び包装資材販売

対象事業所 : 本社、愛西配送センター、
東京営業所、大阪営業所



二重線に囲まれた4つの部分を対象組織とする。

環 境 方 針

環境理念

共同グラビヤ印刷株式会社は、食料品関連の包装資材の生産活動を通じて環境にやさしい包装資材の提供を基本理念として、社会に貢献します。

環境汚染の予防と環境保全の継続的改善により、地球温暖化の防止と環境循環型社会の形成をめざします。

基本方針

1. 共同グラビヤ印刷株式会社に、適用される法規制、共同グラビヤ印刷株式会社が同意するその他の要求事項を順守致します。
2. 環境経営システムを運用するに当たり、以下を目標に展開いたします。
 - ①グラビア印刷の生産活動において、省エネルギーに取り組み二酸化炭素の削減に努めます。
 - ②グラビア印刷の生産活動において、廃棄物の削減・リサイクルの推進に努めます。
 - ③機械使用時等の節水により総排出量の削減に努めます。
 - ④資材調達でのグリーン購入を推進いたします。
 - ⑤環境配慮商品、サービスの提供に努めます。
 - ⑥有害化学物質の使用量の削減に努めます。
3. 本方針を全社員に周知し、環境経営システムの継続的改善を進めます。

制定日 : 2009年 9月30日

改定日 : 2016年 8月20日

共同グラビヤ印刷株式会社

代表取締役 八谷 順一

4 今年度の主要な環境活動計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取り組み

購買電力量

- A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付
- B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26℃・暖房時22℃
- C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し
- D) 機械のメンテナンス体制の充実
- E) 生産設備可働率の向上

ガソリン・軽油の使用量

- A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)
- B) 低速走行の励行、急発進の禁止
- C) 車のエアコン設定温度の見直し
- D) 点検・整備の励行
- E) 納品および営業活動のルートの見直しによる、走行距離の削減

LPGの使用量

- A) 機械のメンテナンス体制の充実
- B) 生産設備可働率の向上

2) 廃棄物排出量の削減取り組み

一般廃棄物・事業系廃棄物

- A) コピー紙の再利用の促進
- B) 紙管の回収及び再利用の促進
- C) 再生紙利用の促進

産業廃棄物

- A) 良品の不良化の防止
- B) 試刷りの適正利用
- C) ロス・製造不良の削減
- D) オペレーターの技術向上

3) 水使用量の削減取り組み

- A) 節水ステッカの貼付
- B) 手洗い等の節水の徹底
- C) 漏水チェック

4) グリーン購入の取り組み

- A) 事務用品のグリーン購入の推進
- B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用
- C) 地元の業者の利用

5) 環境配慮品・サービスの取り組み

- A) 溶剤を使用しないラミネートの推進
- B) 包装資材の古紙利用の促進

6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

- A) 環境負荷の少ない化学物質への切り替え
- B) 有害化学物質の管理の推進
- C) インクの使用量の削減
- D) 5S活動によるインクの整理
- E) インク使用量の管理
- F) 空調機の使用管理
- G) 残インクの再利用率の増加

5. 今年度の環境目標およびにそれに対する取り組み結果

		基準年度実績値 (2016/4～2017/3)	今年度目標値	今年度実績値 (2017/4～2018/3)	対目標 達成度	評価
二酸化炭素排出量 (売上1億円あたり) (kg-CO2換算)		54,250	53,708	54,272	+1.0%	×
内	電気使用量 (売上1億円あたり)(kWh) (kg-CO2換算)(※1)	24,958	24,708	24,702	-1.0%	○
	LPG使用量 (売上1億円あたり)(kg) (kg-CO2換算)	22,790	22,562	23,383	+2.6%	×
訳	ガソリン・軽油使用量 (L) (kg-CO2換算)	77,050	76,280	78,322	+1.7%	×
廃棄物等総排出量(kg)(※2) (売上1億円あたり)		13,331	13,064	14,199	+6.5%	×
水使用量(m ³)		1,444	1,430	1,378	-4.6%	○
グリーン購入推進の取り組み		グリーン購入法対象商品の積極的利用 グリーン購入法対象外でも環境負荷の低い資材を使用 結果:前年並みの取り組みを維持することができた。				○
環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み		環境負荷の少ないノンソルベントラミネート工法の推進 結果:ノンソルラミネートの加工実績は前年並みでフル稼働している。接着剤の改良が完了し、段取り時の接着剤ロスも減少。				○
有害化学物質使用量 削減の取り組み		インキ使用量の削減・環境負荷の低い化学物質への切替 結果:インキ使用量の生産高に対する比が増加した(+1.1%) 受注傾向の遷移により、タイプ違いのインキを大量に処分した。				×

※1 電気使用量から二酸化炭素排出量を算出する際に、エナリスの2015年の値 0.331を使用します。なお、東京営業所は東京電力より電力を購入していますが、全体に占める割合が低く、計算の簡略化のためすべてエナリスの値を用いて計算を行います。

※2 廃棄物総排出量＝一般廃棄物および産業廃棄物(廃プラ・ウエス・廃インキ・鉄くず)

上記の表の数値には、それぞれ以下の対象サイトの数字が合算されています

電気使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所

LPG使用量 本社のみ(他のサイトではLPGは不使用)

ガソリン・軽油使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所・大阪営業所

(ただし、全社一体での購入のためサイトごとの数字は把握不可能)

水使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所

廃棄物等総排出量 本社・愛西配送センター・東京営業所

大阪営業所については、対象サイトが住居と兼用した建物内にあり、電気・LPG・水・廃棄物の事業活動による負荷だけを取り出して計測することが困難であるため、数字による管理は行っておりませんが、これらの使用量・排出量の削減活動に取り組んでおります。

6 取り組み結果に対する評価

1) 二酸化炭素排出量(売上1億円あたり)

結果： 二酸化炭素の排出量は、総エネルギー使用量のCO2換算値で、前年と同じ水準にとどまり、目標については+1.0%となり未達成となりました。

評価： 内訳としては、電力使用量が目標値に対して-1.0%で目標を達成したのに対してLPG使用量は目標値に対して+2.6%、ガソリン・軽油使用量は目標値に対して+1.7%ということで、目標を達成することができませんでした。

LPG(売上1億円あたり)

今年度は、厳冬の傾向(前年比で平均気温-1.5°C)があり、空調機の稼働が1か月近く早くなりました。また、5年ほど前には夏に受注量が多く、冬は受注量が落ち着くという傾向があったものが、ここ数年にかけてシーズン通して受注量が安定したため、冬期の仕事が増えてきています。今年度はよりその傾向が進んだため、冬期のLPGの使用量が増える要因となりました。機械稼働の効率化のために、終業時間が遅くなりそうな機械に、人員を融通して空調の稼働時間を減らす取り組みも行われましたが、ちょうど冬期に人員の入れ替わりが発生してしまい、取り組みが停滞することとなり、効果を上げることができませんでした。

電気(売上1億円あたり)

目標値に対してほぼ同じ(わずかに良い)数字になり、目標達成となりました。機械稼働の効率化の取り組みは冬期に停滞したため、LPGの使用量には貢献できませんでした。通年を通じては順調に取り組みが進んだため、電気使用量の削減につながったと考えられます。ただし、1億円あたりの条件を外した状態では、全体の電力使用量が増えており、特に例年のピークである8月と1月の電力使用量を抑えることができず、ピークカットという観点で成果は十分であるとは言えません。

ガソリン・軽油

ガソリン・軽油については、目標に対して +1.7%となり、達成できませんでした。

ガソリンと軽油を分けたところ、ガソリンは前年比 -2%を達成しているのに対して軽油が前年比 +12%と大幅に増加しています。ディーゼル車を使用しているのは配送トラックのみで、営業活動に使用する車にはありません。

今年度は、往復で100kmを超えるような遠距離にあるお客様への納品がこれまで運送会社や営業の納品だったものが配送トラックでの納品に切り替わったため、大幅に走行距離が増加し、納品ルート等の効率化により良化したと思われる分を上回る事となりました。

2) 廃棄物等総排出量

結果： 廃棄物排出量については、前年の水準に対しては -12%ほど減少し良化しましたが前年度の数字が極めて悪い数字であったため、目標設定の基準値が2年前となっており、その目標値に対しては +6.5%と、達成することができませんでした。

評価： 内訳として、廃プラスチックごみが2年前に対して+20%と大幅に増加しています。廃プラスチックには、製造ロス、試刷り使用済みのフィルムがありますが、試刷り用フィルムの使用量は例年並みであるため、製造ロスが増えていると考えられます。今年度より、製袋部門に三方袋加工機が1台導入されました。

製袋部門は他の部門に対して、たとえ正常に加工された場合においてもロスが多く発生する部門であるため、三方袋加工機の導入が廃プラスチックの増加につながっていると考えられます。そこで、三方袋加工機を対象として、排出される製造ロスの廃プラスチックについて重量を把握できるような体制を検討します。他に増加した廃棄物としては、鉄くずが前年度比で +40%と大幅に増加しました。この鉄くずは全て、ノンソルミネート用の接着剤の使用済み容器になります。接着剤メーカー側の仕様変更により、1缶当たりの入り数量および、缶そのものの形状が変化したため、接着剤の使用量がかわらないにもかかわらず容器重量が大幅に増加することとなりました。

3点目に、ウエスが前年比で +27%と大幅に増加しました。これは10月から2月にかけて、工場内でインキをこぼすトラブルが多発したことにより使用量が大幅に増えました。その後、担当者の配置換えや指導により、同様の事故は防がれており、例年並みの使用量に戻りました。

ただし、これまで自社で必要なサイズに再カットを行っていたものが外注業者に依ることとなり、自分たちの負担が減ったことにより安易にウエスを使用する雰囲気になりかねないため、指導によりその点を意識させています。

3) 水使用量

結果： 水の使用量については、目標値に対して -4.6%となり目標を達成しました。

評価： 昨年まで、7・8月機に、空調機のトラブルに対して水を直接かけ流して対応していたものが今年度は適正に水量が調整されたため、例年400m³を超えていたのが他の季節並み(250m³程度)に収まりました。

4) グリーン購入の取り組み

事務用品のグリーン購入の推進

全体的に前年度並みの活動を維持することとなりました。プリンターの買い替えの際にエコタンク仕様のものや、カートリッジではなくパック形態のものを選ぶなどしてインキ容器のゴミを減らすように選定しています。

購入資材にリサイクル品を積極的に使用

ウエス・段ボール・紙管は、もとよりリサイクル率の高い商品を使用しており、今年度も引き続きそれらの商品を使用しています。

地元の業者の利用

特に備品のメーカーの変更などがなかったため、昨年と同水準の活動になります。

5) 環境配慮型商品、サービスの推進の取り組み

溶剤を使用しないラミネートの推進

接着剤の改良などにより、適用できる材質を増やしていった結果、機械がフル稼働するようになり、営業時の推進活動は成果を上げていると考えられます。

しかし、全体の受注量の増加に伴い、やりきれないほどの量となったため、外注に回ることとなり、結果として社内加工の割合は67%から63%に減少しました。

これを補うため、外注についても、ノンソルラミネート機を持つ外注先を選び、今まで溶剤を使用するラミネートを依頼していたものを、ノンソルラミネートにて加工してもらうように少しずつ切り替えています。

包装資材の古紙利用の取り組み

今年度は、使用する材質の変更はありませんでしたが、製品の規格の変更によりつかわれなくなった段ボールの型番が発生したため、それを備品用の箱に転用することで、有効活用しています。

6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

環境負荷の少ない化学物質への切り替え

有害化学物質の管理の推進

インキ使用量の削減および管理

今年度のインキ使用量は、印刷機の生産工賃高との比率でいうとほぼ前年並みの数字となりました。しかし、受注傾向の変化により、ほとんど使われないことがなくなったタイプのインキを廃棄処分したため、産業廃棄物としての外部への排出量は多くなりました。

溶剤回収機による溶剤の再利用の取り組みは、前半期には人員の不足により例年以下の不十分な結果でした。そのため、12月に体制の見直しを行い、担当者が1名だったものを2名以上でやることとし、記録書式や管理体制を整えました。

後半期については、ここ数年にないペースで溶剤回収機が稼働しています。

空調機の使用管理

昨年度より、空調装置を毎月1回点検し、故障によるフロンの外部流出がないか確認しております。

7. 本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価

・愛西配送センター(常駐 0名)

電力使用量について、前年比で -2%となり削減することができました。

前年度の問題であった、1階に動かない荷物があつた点を、2階の良く動く客先の製品と入れ替えることでエレベーターの稼働を減らすことができました。

水使用量については、ほぼ昨年並みの数字となりました。

・東京営業所(所属 1名)

前年度の後半期に一時的に2名になり、常駐者が1名いた環境が、今年度は再び1名の体制に戻りました。そのため電力使用量・LPG使用量について前年よりも大幅に減少しました。

その中で、電力使用量については、同じ1名の体制であった2年前や3年前に比べても5%以上低い水準であり、順調に削減できています。

・大阪営業所(所属 1名)

ガソリン・軽油使用量、および環境にやさしい製品の推進の2つの項目のみの参加となっています。この2つとも全社あわせての評価となるため、大阪営業所の活動については、本社の活動とまとめて評価します。

8. 教育訓練体制についての評価

新人の勉強会について、勉強会の対象者についての把握はなされているものの指導担当者が土曜日をうまく空けることができず、少ない回数の実施にとどまりました。勉強会という形で指導の経験があるものが1名しかおらず、その1名の仕事量に左右されてしまうため、現在は勉強会を開催することのできる人員を複数にする体制づくりが急務となっています。

3ヶ月に1回に啓発用のチラシを作成し、各部署で回覧しています。

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の環境管理に対する近隣住民からの苦情・指摘は直近3年間ありません。

「消防法」について、印刷用インキの保管設備の形態について、津島市の消防本部より指摘がありました。この点について、現在工事業者を選定し、業者と消防本部との間で方法について打ち合わせを行っており、了承が得られ次第着工する予定です。

この後も関係機関の指導を受けながら保管設備の修繕計画について進めていきます。

その他の環境関連の法規につきましては、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』・『PRTR法』・『騒音規制法』・『振動規制法』・『フロン排出抑制法』などが適用対象に該当いたします。これらの法規に対し、当社で順守状況を確認致しました結果、違反はありませんでした。また、外部からの違反の指摘もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直し

空調機の更新等、今年度には完了しているはずの計画が停滞しており、早急に計画を進めることが求められます。また同じ頃に導入された他の設備についても、今後同様に老朽化による更新が求められる可能性が高くなっています。

その更新のタイミングをチャンスとして、より環境負荷の低い設備にすることができるよう、設備会社と相談して検討することとします。

人手不足を補うために、社員の教育を進めているが、製造スキルの向上は見られるものの環境に関連するスキルについては、特定のメンバーに偏っており、不十分です。

環境活動を実施する組織を、環境活動について教育する場ともなるように、組織の再構築も含めて、より成果の上がる形を検討することとします。

11. 次年度の活動管理について

次年度の活動レポートについては 2019年6月30日までに作成するものとします。

12. 中期計画(2017年度～2021年度まで5ヶ年)

前年度の計画策定により、中期計画の目標数値の算出方法を「売上高」をベースとし、売上高1億円あたりの環境負荷を計算する方式となりました。

ただし、ガソリン軽油使用量は主に営業活動に起因し、売上高に関係なく定常的な活動が行われていると考えられます。また水使用量については、その使用量の大半を占める工場設備の冷却水の水量は生産規模に関係せず一定に設定してあることと、生活排水についても人数の影響こそあれ売上高の影響は少ないと考えられます。そのため、この二つの指標については、売上を加味しないそのままの数値を使用しております。

	二酸化炭素 総排出量 (kg-CO2)	電力使用量 (※1) (kg-CO2換算)	LPG使用量 (kg-CO2換算)	ガソリン軽油 使用量 (kg-CO2換算)	水使用量 (t)	廃棄物等 総排出量 (kg)
2016年度実績値 売上:11.85億円 (売上1億円あたり)	642,865 (54,250)	295,752 (24,958)	270,063 (22,790)	77,050	1,444	(※2) 151,180 (13,331)
2017年度目標値 売上1億円あたり	53,708	24,708	22,562	76,280	1,430	13,064
2018年度目標値 売上1億円あたり	53,165	24,459	22,334	75,509	1,415	12,931
2019年度目標値 売上1億円あたり	52,623	24,209	22,106	74,739	1,401	12,798
2020年度目標値 売上1億円あたり	52,080	23,960	21,878	73,968	1,386	12,664
2021年度目標値 売上1億円あたり	51,538	23,710	21,651	73,198	1,372	12,531

環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み	2016年度のノンソルラミネート機の製造工賃高を維持
有害化学物質使用量 削減の取り組み	印刷機の印刷工賃に対するインキ使用量の比率を削減 2020年度までに溶剤再生機の稼働実績を、営業日×3回の水準を達成

※1 電気使用量(kWh)から二酸化炭素排出量を計算するための係数は 0.331(エナリス:2015年)を使用

※2 2016年の廃棄物排出量の数値が平年に対し突出したものであったため、2015年の数値を使用
今年度の結果を受けて、特にLPGの排出量の削減と化石燃料の使用量、特に配送係で使用している軽油の使用量を削減できるように活動内容を検討します。

LPG使用量の削減については、工場の空調機の更新が計画されているので、速やかに進めてまいります。

13. 次年度の主要な環境活動計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取り組み

購買電力量

- A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付
- B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26°C・暖房時22°C
- C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し
- D) 機械のメンテナンス体制の充実
- E) 生産設備可働率の向上

ガソリン・軽油の使用量

- A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)
- B) 低速走行の励行、急発進の禁止
- C) 車のエアコン設定温度の見直し
- D) 点検・整備の励行
- E) 納品および営業活動のルートの見直しによる、走行距離の削減
- F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析

LPGの使用量

- A) 機械のメンテナンス体制の充実
- B) 生産設備可働率の向上
- C) 段取り向上による、工場稼働時間の短縮

2) 廃棄物排出量の削減取り組み

一般廃棄物・事業系廃棄物

- A) コピー紙の再利用の促進
- B) 紙管の回収及び再利用の促進
- C) 再生紙利用の促進

産業廃棄物

- A) 良品の不良化の防止
- B) 試刷りの適正利用
- C) ロス・製造不良の削減
- D) オペレーターの技術向上

3) 水使用量の削減取り組み

- A) 節水ステッカの貼付
- B) 手洗い等の節水の徹底
- C) 漏水チェック

4) グリーン購入の取り組み

- A) 事務用品のグリーン購入の推進
- B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用
- C) 地元の業者の利用

5) 環境配慮品・サービスの取り組み

- A) 溶剤を使用しないラミネートの推進
- B) 包装資材の古紙利用の促進

6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

- A) 環境負荷の少ない化学物質への切り替え
- B) 有害化学物質の管理の推進
- C) インクの使用量の削減
- D) 5S活動によるインクの整理
- E) インク使用量の管理
- F) 空調機の使用管理
- G) 残インクの再利用量の増加